

食の国際交流と豊かな食生活をめざして

日本通として知られ、ヨーロッパの生活も経験されて、文字通り国際的な味覚を持たれた元米国駐日大使・故ライシャワー博士は、「食の国際交流」が世界中の人々に豊かな食生活をもたらしていることを、当社に寄せたメッセージのなかで述べられています。そしてその例証として、日本人の食生活に欠かせない基礎調味料・しょうゆのアメリカ進出と成功を取り上げています。

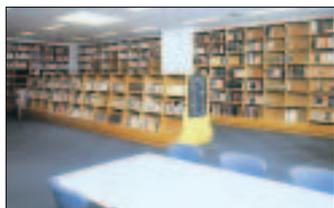
また評論家の花田清輝は「真にナショナルなものは、実はインターナショナルである」と喝破

しましたが、まさにしょうゆについて述べているかのようなのです。

このように一国の食文化が、世界各国の文化に融け込み、新しい食文化として芽生え、成長するとき、人々のより豊かな食生活が育まれるのです。

当センターの活動が、日本はもちろん世界の国々の食の歴史や食文化の紹介にとどまらず、「食の国際交流」に少しでも寄与できることを願っています。

キッコーマン国際食文化研究センター



食関連図書コーナー
インターネットからも収蔵図書の検索ができます



キッコーマンの故郷—野田の町並みに調和させた野田本社



展示パネル・映像コーナー

<キッコーマン国際食文化研究センターホームページ>

<http://kiifc.kikkoman.co.jp/>

キッコーマン国際食文化研究センター

〒278-8601 千葉県野田市野田250 TEL:04-7123-5215 FAX:04-7123-5218

<開館時間>午前10時～午後5時 <休館日>土・日曜日、祝日(年末・年始、ゴールデンウィーク、旧盆)

※詳細は当センターへお問い合わせください。



表紙・「熙代勝覧」(絵巻)解説

「熙代勝覧」は、庶民文化が華やかに開花した、今から200年ほど前、文化2年(1805)頃の江戸の、今川橋から日本橋・魚河岸までの大通りの繁盛ぶりを克明に描いた12mほどの絵巻です。

この絵巻はおよそ10年前、ベルリン東洋美術館の賛助会員であるハンス・ヨアヒム・キュスター氏が転居される時に偶然屋根裏で発見されました。中国美術のコレクターであった氏の没後、当美術館に全てを寄託されたもので、今まで人知れず保管倉庫に眠っていたものです。

巻頭に「熙代勝覧」の大書があり、当時の著名な書家・佐野東洲の筆とされるこの書は、徳川家斉の治世、熙ける御代の勝れた大江戸の景観を一覧する、という意のようです。

ただ、絵師は落款署名もなく、不明です。題簽(表紙につけられた題名)に「熙代勝覧 天」とあることから、「地」などの別巻もあったものと想定されます。先般(2003年1月)江戸東京博物館で催された「大江戸八百八町」展において—日本橋繁盛絵巻「熙代勝覧」の世界—として日本で初公開され、話題を呼びました。「熙代勝覧」：江戸東京博物館(ベルリン東洋美術館所蔵)